

国東市民病院 臨床研究実施計画書

研究のテーマ

回復期リハビリテーション病棟における新型コロナウイルス感染症感染拡大対策が及ぼす在宅復帰への影響

1. 研究の背景これまでの研究の概要

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、2019年12月初旬に確認され、その後世界的に大流行し、医療現場は大きな対応策を講じることが求められた。回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハビリ病棟）では、患者の退院支援を行ううえで、家族への情報聞き取り、家屋調査、必要に応じて試験外泊等が積極的に行われるが、感染拡大対策のため面会禁止や患者の外出・外泊禁止を余儀なくされた。

先行研究では、入院時 FIM と在宅訪問の有無が在宅復帰するための因子となると報告されている。

また、同居家族への介助・介護指導は、通常のリハビリ以上の効果を発揮し、在宅復帰に繋がる要因であることから、感染拡大対策による対応が在宅復帰へ影響を与えたのではないかと考えた。

2. 研究の目的

COVID-19 の感染拡大対策による対応が、在宅復帰へどのような影響を与えたのか調査を行う。

3. 研究の方法

【対象】

2018年4月～2019年12月、2020年4月～2022年3月末までに、当院回復期リハビリ病棟に入棟し退院した患者（車椅子移動が非自立且つ入棟時 FIM が 27 点以上）

【調査項目】

年齢、性別、疾患分類、退院先、入棟時・入棟翌月・退院時 FIM、介護認定の有無、家族背景、リハビリ実施率、回復期リハビリ病棟在院日数、家屋調査の有無、試験外泊・外出の有無、カンファレンス時の本人参加有無、コロナ期間中か期間外か

【方法】

- ・2018年4月～2019年12月末までを非コロナ期間とし、その期間中に当院回復期リハビリ病棟に入棟し、在宅復帰した患者を在宅復帰群、在宅以外に退院した患者を非在宅復帰群に分類、更に2020年4月～2022年3月末までをコロナ期間とし、その期間中に入棟し、在宅復帰した患者を COVID-19 在宅復帰群、在宅以外に退院した患者を COVID-19 非在宅復帰群の 4 群に分類し多重比較法によって比較検討する。
- ・多重比較法で優位差を認めた項目を説明変数とし、在宅復帰の有無を従属変数として多変量分析を行い、在宅復帰に関連する要因を検討する。

4. 倫理的配慮

当院の倫理委員会の承認を得た上で、対象者の匿名化を行い個人情報保護に十分配慮し不利益は生じないものとする。

5. 参考文献

- 1)糸谷 圭介ら（2015）：リハビリテーション病院入院患者における在宅復帰のための要因の検討
Japanese journal of Health Promotion and Physical Therapy Vol.4, No.4
- 2)前嶋 真一郎ら（2000）：脳卒中早期リハビリテーションにおける家族訓練の有用性
総合リハ 28 巻 12 号
- 3)糸谷 圭介ら（2013）：在宅復帰患者における住宅訪問調査実施の判断基準に関する検討
理学療法科学 第 28 巻 6 号

6. 研究責任者

リハビリテーション部 総括技師長 中村 晋也